

市民に要求をアピール

NRU 国労せんだい

No. 2490

2007年3月21日

発行責任者 太田 博二

編集責任者 武田 昌仙



仙台市内で声高らかにシュプレヒコール

国労仙台総行動から

地方本部は07春闘勝利に向けての大衆行動として、3月9日に国労東北総決起集会（速報版参照）、翌10日には国労仙台総行動を仙台市内にて展開した。両日合わせて600名を超える組合員が仙台の地に結集したが、その具体的な行動等について以下に報告する。

総行動開始

○集会（座り込み）

集会は仙台市勾当台公園憩いのゾーンにおいて、地本武田執行委員の司会で開会した。冒頭主催者を代表して挨拶に立った地本太田委員長は、「総行動は今年で4年目。二つの柱で取り組んできた。一つは職場総点検運動、二つは安全問題である」とその意義を述べ、更に「労働者同士の格差など賃上げの客観的条件はある。組織された私たち労働組合が先頭に立ち、外に向かって団結のアピールを」と一日の行動に激励の言葉を掛け、また1047名問題の早期解決も合わせての集会であることを表明した。引き続き

き、この集会のために多くの来賓の方々に駆けつけて頂き、激励と連帯の挨拶を頂戴した。

【別掲】

○組織拡大報告

更に組織拡大報告として、2月7日に国労に加入した太田さんの所属する仙台電車区分会の我妻分会長より報告を受けた。また報告終了後、集会参加者の励ましの言葉が飛びめられた「檄布」が太田委員長より我妻分会長に手渡された。



○ミニコンサート

D51合唱団&国鉄郡山うたう会&郡山合唱団座り込みを続けながらの昼食後は恒例となったD51合唱団のうたごえ披露である。今回は昨年「国鉄のうたごえ全国祭典」を開催した福島との仲間とのジョイントコンサートということであり、国鉄闘争や平和の大切さをアピールして頂いた。



○チラシ配布行動

チラシ配布行動は仙台駅東宝前・フォーラス前・勾当台駅前の三カ所で行われた。短時間であったが、我々の考えや主張を多くの市民の方々に知ってもらえるきっかけとなったのではないだろうか。

チラシの内容は、格差社会と平和問題、空港アクセス鉄道ワンマン運転（安全問題）、ホワイトカラーエグゼンプション（長時間労働）、1047名不採用問題の早期解決である。

どうぞ！

こんにちは、
国労です

激励に駆けつけて 頂いた来賓の皆様

【順不同】

日本共産党宮城県委員会

加藤 幹夫様

宮城県交運労働協事務局

阿部 正二様

宮城県労働連副議長

清水 英之様

仙台市職員労働組合委員長

岩 渕 淳様

宮城県教職員組合委員長

佐々木 永一様

全農林仙台分会委員長

関 広志様

建交労働道宮城地本委員長

佐藤 稔様

仙台市議会議員予定候補者

樋口のり子様

宮城県団結集会実行委員会

副実行委員長 堀川 嘉隆様

仙台市議会議員

大槻 正俊様

仙台市議会議員

石川 建治様

宮城県議会議員

岸田 清実様

国労本部委員長

佐藤 勝雄様



○春闘川柳発表と表彰式
昨年から行われている催しとして、今年も春闘川柳が取り組まれた。応募総数93句の中から厳選なる集計の結果、

春闘川柳上位発表

第一位35票	主任職 車両係に 仕事聞く	詠み人知らず
〃	働けど ひたいは上がるが 賃金上がらず	ブラックSSK
第三位33票	上位職 口は出しても 手は出さず	ゲバゲバ
〃	和解なら 返して欲しい 二十年	トトロ
第五位32票	仕事せぬ 同僚だけが 出世する	スタービー
第六位28票	我が手取り 何年経っても 同じ額	サブライズ・セロ
第七位16票	ベアゼロで 必然的に ダイエット	メタボリック
第八位14票	賃金は 上がらないが 増す責任	ホワイト
第九位13票	確変に 涙流した 給料前	単発名人
第十位10票	ワァーすこい 言われてみたい 給料で	自風士
〃	税負担 家計圧迫 手取り減る	美しい国
〃	働けど 企業の陰で 民が泣く	平成啄木
〃	産む機械(機会) 与えて欲しい 賃上げで	反自公民

左記の句が選出された

07春闘事務局局長の中島地本執行副委員長より10位まで(3句)が詠み上げられ、太田委員長より豪華賞品が手渡された。



○不採用問題で
全国キャラバンに呼応
不採用事件20年解決実



現「が」総行動の中で確認された。全国キャラバンに呼応した。仙台地本の取り組み。東日本各地で受け入れ、支援要請を展開している。

総行動は、佐藤勝雄中央執行委員長が駆けつけ、不採用問題解決に向けた情勢と課題を提起し、「地本全体で支えあふ」との意思統一を行った。



賞品を受け取る第一位の吉田英樹さん

○青空ミミ学習会

恒例となった屋外でのミミ学習会は、安全に対する諸課題とその問題点などを一緒に考え、問題意識を持つてもらった。がねらい。今回は、アセス問題、アクセス鉄道ワンマン運転、関連会社社員の労災死亡事故の3点について、それぞれの立場から報告をして頂いた。



アセスト
といえは勝
であります。
ヨロク!



ワンマン運転の当事者は国労では僅か二人。しかしそこを全体で考えるのが国労。
佐々木です。



協力会社の仲間の死を自らの事として受け止めては組合の意味はない。
庄司です。

○地本大沼書記長集約

昨日の東北集約は全体で346名、仙台は241名の結集。本日の総行動では272名の仲間が結集し、地本で両日合

○仙台闘争団 高橋団長



○貨物協議会 木村議長



○自動車支部 大倉委員長



○山形県支部 伊藤書記長



各支部決意表明

○郡山工場支部 大橋副委員長



○福島県支部 小檜山委員長



○仙台総合車両所支部 庄司委員長



○宮城県支部 山田書記長



ている。貨物では5年連続の黒字計上、今年も確実でありながら社員の労苦を顧みない交渉。東日本では過去最高益で、今春闘は、昨年を上回るべし。実施と最低賃金引き上げ、正規社員待遇を勝ち取るのが焦点。上場企業大手各社は、ブルル期を凌ぐ過去最高益を確保し、昨年を上回る有額回答が確実。貨物、旅客共に交渉を重ね



地本は本部・サブ本部の交渉を押し上げる目的で、春闘の柱として一つは職場要求の確立、もう一つは大衆行動を通じて全体で職場改善運動を共有化することを取組んできた。今春闘では昨年も増した職場集会や要求作りが進められ、大衆行動では全支部が事務局に入り、各取組みがご覧の通り大成功に。

地域共闘との春闘作り、各政党や労働団体、加盟労組の皆さんからの激励と連帯の挨拶があった。労働者全体の労働条件底上げの共通認識、更に統一自治体選挙に挑戦する候補者からの決意もあつた。職場労働条件改善の取組みはこれから。現場長への要請行動や対話活動を進めよう。差別是正の闘いは組織拡大に結びついている。明日からまた職場地域で奮闘し合おう。